

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の学習成果と学位論文等審査基準の対応マップ

		卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の学習成果		
		1	2	3
学位論文審査基準	1	◎		○
	2	◎	○	
	3	◎	◎	
	4	○	◎	
	5	○	◎	◎
	6			

人文科学研究科心理学専攻博士前期課程の学位論文を評価するためのルーブリック

	尺度5 (S) (特に優秀な成績)	尺度4 (A) (優秀な成績)	尺度3 (B) (要求を満たす成績)	尺度2 (C) (合格と認められる最低の成績)	尺度1 (D) (不合格)
研究課題の明確性及び先行研究を踏まえての的確性	先行研究が明らかにした当該領域の研究知見を極めてよく理解し、検討した上で、研究テーマが非常に明確に設定されている	先行研究が明らかにした当該領域の研究知見を十分に理解し、検討した上で、研究テーマが十分明確に設定されている	先行研究が明らかにした当該領域の研究知見をある程度理解し、検討した上で、研究テーマがある程度明確に設定されている	先行研究が明らかにした当該領域の研究知見を最低限理解し、検討した上で、研究テーマが最低限明確に設定されている	先行研究が明らかにした当該領域の研究知見を理解、検討しておらず、研究テーマが明確に設定されていない
課題を追求する上での方法論の適切性	研究参加者の権利と研究者の社会的責任を非常によく考慮し、研究の倫理に関して極めて適切に判断している	研究参加者の権利と研究者の社会的責任を十分に考慮し、研究の倫理に関して十分適切に判断している	研究参加者の権利と研究者の社会的責任をある程度考慮し、研究の倫理に関して概ね適切に判断している	研究参加者の権利と研究者の社会的責任を最低限考慮し、研究の倫理に関してある程度適切に判断している	研究参加者の権利と研究者の社会的責任を考慮せず、研究の倫理に関して適切に判断していない
研究方法及び調査方法の妥当性	研究テーマに関連した心理現象や社会現象を客観的にとらえることができる研究方法・測定方法・データ解析法を極めて適切に選択し、実施している	研究テーマに関連した心理現象や社会現象を客観的にとらえることができる研究方法・測定方法・データ解析法を適切に選択し、実施している	研究テーマに関連した心理現象や社会現象を客観的にとらえることができる研究方法・測定方法・データ解析法を比較的適切に選択し、実施している	研究テーマに関連した心理現象や社会現象を客観的にとらえることができる研究方法・測定方法・データ解析法を最低限適切に選択し、実施している	研究テーマに関連した心理現象や社会現象を客観的にとらえることができる研究方法・測定方法・データ解析法を適切に選択し、実施していない
結論の妥当性	実証的なデータに基づき、極めて論理的な議論を通じて、非常に説得力をもった一貫性のある主張を構築できている	実証的なデータに基づき、十分に論理的な議論を通じて、十分に説得力をもった一貫性のある主張を構築できている	実証的なデータに基づき、比較論理的な議論を通じて、ある程度説得力をもった一貫性のある主張を構築できている	実証的なデータに基づき、最低限論理的な議論を通じて、最低限説得力をもった一貫性のある主張を構築できている	実証的なデータに基づき、論理的な議論ができておらず、説得力をもった一貫性のある主張を構築できていない
研究の独創性と研究分野への貢献	新しい問題の発見や新しい方法の開発を通して、当該研究領域に極めて大きく貢献しうる知見を明らかにしている	新しい問題の発見や新しい方法の開発を通して、当該研究領域に十分貢献しうる知見を明らかにしている	新しい問題の発見や新しい方法の開発を通して、当該研究領域にある程度貢献しうる知見を明らかにしている	新しい問題の発見や新しい方法の開発を通して、当該研究領域に最低限貢献しうる知見を明らかにしている	新しい問題の発見や新しい方法の開発をしておらず、当該研究領域に貢献しうる知見を明らかにしていない
その他					